

カナモジカイが めざす もの

ワタシたちは、ニホンゴの カキアラワシ〜カタに ついて かんがえ、その あるべき スガタを ジツゲン する ために ウンドウ して います。

ニホンゴを かきあらわすの には、カンジと カナが もちいられて いますが、カンジの カズの おおさや ツカイカタの フゴウリサ（ヒトツの カンジに ヨミカタが いくつもある など）の ため、ニホンゴの ヒョウキ〜ホウは、セカイに レイの ない フクザツな もの と なって おり、ヒ〜コウリツや さまざまな ワザワイを もたらして います。カナモジカイは、それらの カイケツを めざして 1920ネンに ソウリツ されました。

セングの コクゴ カイカク ―― これ には、カナモジカイも おおきな コウケンを しました ―― に よって、モジの よめない ヒトは ほとんど いなくなりました。また、コンピューター などで カンジを あつかう キジユツも ヒヤクテキに シンポ しました。しかし、ワタシたちは、これで モンダイが カイケツ された とは かんがえて いません。

1. カンジは、ニホンゴを ただしく かきあらわす ことが できない フカンゼンな モジ です。

「私」と いう カンジは「わたし」とも「わたくし」とも よめます。「明日」は「あす」とも「あした」とも「みょうにち」とも よめます。どれが ただしい ヨミ なのかは、それを かいた ひとに しか わかりません。「わたし」「わたくし」、「あす」「あした」「みょうにち」は、それぞれ イミは ちかくても ベツの コトバ ですから、それらを クベツ できる ように うつしだす ことが できなければ、モジと しての ヤクワリを はたして いる とは いえませんが、

2. カンジは ニホンゴの デントウを ハカイ しました。

ニホン では、ガイライの カンジ・カンゴを ありがたがり、ホンライの ジブンタチの コトバで ある ヤマトコトバ（ワゴ）を いやしんで きた ため、おおくの ヤマトコトバが ほろび、カンゴに とって かわられました。

カンジは、いきのこった ヤマトコトバ にも おおきな ツメアトを のこしました。「くさい」と「くさる」、「おもい」と「おもな」は、ニホンゴと しては キョウダイの コトバ

ですが、チュウゴクゴに ならって 「臭い」「腐る」、「重い」「主な」、と ことなるカンジを あてて かきわける ため、それぞれの コトバの カンケイが わからなく なり、したがって、コトバの ホントウの イミも わからなく なりました。

また、「微笑む」と かいて 「ほほえむ」と よませる ことも おこなわれて いますが、これは ゆるすまじき こと です。「ほほえむ」とは ホンライ 「ホホが えむ」という イミ ですが、「微笑む」と かいたの では その ことが みえなく なり、「微(かす)かに わらう」という イミに すりかわって しまいます。

3. カンジは ニホンゴの ハッタツを さまたげて きました。

ニホン では、ながい アイダ カンジに イゾン して きた ため、メで みれば イミが わかっても、ミミで きいて わからない カンゴが アンイに つくられて きましたし、いまも つくられて います (たとえば、「防汚」「放鳥」「廃農」 など)。また、カンジの オトは きわめて かぎられた ものである ため、カンゴの ほとんどは ドウオン～イギゴと なって しまいます。

そのため、ハナシコトバとしての チカラが よわまった だけでなく、ホンライの ニホンゴ (ヤマトコトバ) による ソウゴ～ホウの ハッタツが さまたげられ、「カタカナ～ゴ」が ヒツヨウ イジョウに ふえる ゲンインの ヒツツ とも なりました。

ミミで きいて わからない コトバ でも、ジを みれば イミが わかる から カンジは ベンリだ、などと かんがえる のは、サカダチ した カンガエ～カタ です。

4. カンジは、コトバの ジャクシャを うみだしました。

メの フジユウな ヒトビト などにとつて、カンジを まなぶ ことは きわめて コンナン です。ニホンゴを カンジに イゾン する コトバの ままに して きた ことが おびたしい カズの ミミで きいて わからない コトバを つくりだして きた ので あり、カンジを つかわない ヒトビトに たいする カベを つくって きたの です。このことは、かれらに たいする サベツである と いても いいすぎ では ありません。

5. カンジは、キョウイクの うえて オモこと なって います。

セングの コクゴ カイカクも、カンジの カズの おおさや ツカイカタの フクザツサによる ガクシュウの ムズカシサを いくらか やわらげたに すぎません。そのため、ホンライは コトバの ウツツである はずの モジの ガクシュウ —— その ダイブランは カンジの

ガクシュウ —— が おもい フタンと なって います。ガッコウ での「コクゴ ガクシュウ」は「カンジ ガクシュウ」に かたよった もの に なって います。

6. カンジは、ガイコクジンに とっても おおきな カベと なって います。

ニホンゴは、ハツオンも ブンボウも けっして むずかしい ゲンゴ では なく、まなんだ ガイコクジンは、はなす だけ なら、それほどの クロウは ない と いわれます。カンジが カベと なり、ガイコクジンの ニホンゴを まなぼうと する イヨクを そぎ、ニホンの シャカイ への サンカを とざし さえ して いる のは、とても ザンネンな こと です。

ニホンの ガッコウで まなぶ ガイコクジンの コドモが ニホンゴを ミに つける ことが できずに おちこぼれて いく のは シンコクな シャカイ モンダイに なって いますが、カンジの ムズカシサが その ゲンインの ヒトツツ ある ことは うたがいようも ありません。

7. カンジは、シャカイ セイカツの ノウリツを ひくい もの に して います。

いまは、コンピューター など で カンジを —— イゼンに くらべれば —— たやすく あつかう ことが できます。しかし、カンジ への ヘンカンと いう サギョウが ノウリツを おおきく さまたげて います。

カンジは つかいこなす ことが むずかしく、カキ~マチガイや ヘンカン~ミス、ヨミ~マチガイが しばしば おこります。また、オクリガナ の ツケカタ など まよう ことも すくなく ありません。(問合せ? 問合わせ? 問い合せ? 問い合わせ?) これは、ジカンの ムダ です。

カンジの もたらした ワザワイは まだまだ ありますが、こゝ には はぶきます。

カナモジカイの モクテキを ヒトコトで いえば、カンジを ハイシ する こと によって ニホンゴの カキアラワシ~カタを ゴウリカ し、ニホンゴの デントウを まもり、かつ ニホンゴの ホンライの セイメイ~リョクを はなひらかせよう と いう こと です。もっと みじかく いえば、ニホンゴを あいし、タイセツに して いこう と いう こと です。

この モクテキを ジツゲン する ため、カナモジカイ では、カタカナ だけで ブンショウを かく こと を うたえて きました。その ため、カタカナ だけで かいても よみやすい デザインの カナモジ~ショタイ (「カタセングナ」と いいます。)を

つくる などの カツドウを して きました。

さしあたっては、ひらがな でも よいの です。カンジに たよらない ニホンゴを
そだてて いきましょう。ミナサンも ぜひ ワタシたちの ナカマに くわわって ください。